

いもう 葦毛通信



コウヤボウキの種子

2022年2月17日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町3丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 121

1、2021年度モニタリング報告一

2021年度はQ・R地点の復元した旧水田①～⑥の観察を続けています。多くの植物や動物が戻ってくるには数年かかると予想していましたが、驚くほど多彩な生物が数多く出現しました。右写真の水面に浮かんでいるのはコナギ、その周りで黒くなっているのはフラスコモ、緑色は藻類です。周りの陸地からはミゾソバが進出しています。葦毛通信 No. 113・114 では植物を中心に報告しましたが、今回は植物以外の動物について報告します。



R地点旧水田⑥（2021年11月10日）

旧水田①～⑥のうちで、水が保たれ池状になったのは、③・④・⑥の3か所です（位置は葦毛通信 No. 113 参照）。この内③・④に関しては10月以降雨が少なく水がなくなり、雨が降ると水が戻って池状になりますが、数日でまた水が無くなるということを繰り返しています。春になり、降水量が増えれば安定した池の状態が続くと思われま

す。⑥に関しては、北側の水路から水が供給されているので、雨が少なくても水は無くならず、安定して池の状態を保っています。この⑥が最も動物の種類が多く観察できました。以下では、水生生物について報告します。

1) 昆虫

昆虫は、③・④・⑥で4月7日にヒメゲンゴロウを確認しました。これが最初に確認された昆虫で、まだ植物も十分に発芽していない状態にもかかわらず10頭以上が確認されました。水生昆虫としては、⑥からヒメガムシ、マツモムシ、ギンヤンマ・コオニヤンマとカワトンボ科・イトトンボ科のヤゴが確認されています。

葦毛湿原のトンボは3月から12月まで様々な種類が見られます。旧水田は池状になってから様々なトンボが見られましたが、すべてを記録しているわけではありません。しかし、産卵行動が見られたトンボもいたので、ヤゴが出現するだろうと予想していましたが、今回確認できたのは、ギンヤンマ(45mm)・コオニヤンマ(33mm)・カワトンボ科(12mm)とイトトンボ科(12mm)のヤゴでしたが、これもたまたまウシガエル駆除のために設置した籠ワナに入っていたものです。カワトンボ科とイトトンボ科のヤゴは体長12mmでかなり小さ

くまだ種名は確認できていませんが、カワトンボ科はこれまでも葦毛湿原で確認されているアサヒナカワトンボの可能性が高いと考えています。



ギンヤンマのヤゴ (2021年11月10日) コオニヤンマのヤゴ (2021年11月10日)



イトトンボ科のヤゴ (2021年11月15日) カワトンボ科のヤゴ (2021年12月14日)



ヒメゲンゴロウ (4月12日) ヒメガムシ (11月15日) マツモムシ (11月15日)

2) 魚類

魚類はホトケドジョウとカワムツが確認されています。いずれもウシガエル駆除のための籠ワナに混獲されたものです。ホトケドジョウは愛知県絶滅危惧 I B 類です。⑥では一週間に一度程度籠ワナの確認を行っていますが、ほぼ毎回入っています。葦毛湿原ではこれまでも見られましたが、⑥がホトケドジョウの生息に適した環境になったようで、かなり多くの個体がいると思われます。

カワムツも籠ワナに何度も入っています。体長100～150 mmの成魚が多く入っていますが、大型の籠ワナの網の目が大きく、これより小さな魚はすり抜けてしまっているようです。⑥で確認されたカワムツの稚魚は、バケツで水をすくった際に入ったものです。水中には10～30 mm程度の小魚が数十匹群れて泳いでいるのが見られます。フラスコモやコナギ

が出現し隠れるところが多くなって増えたものと思われます。

11月23日には籠ワナに餌を入れました。100円ショップで買ったザリガニの餌をお茶パックに入れてワナの中に入れました。ウシガエルが入るかを確認するためでしたが、ウシガエルはすでに冬眠に入ったようで全く入りません。しかし、カワムツの成魚が多く入りました。12月1日には100～150 mmの成魚が6匹も入っていました。

3) 両生類

10月6日には③にアズマヒキガエルが入っていました(葦毛通信 No. 115)。12月8日にはツチガエルが確認できました。背中へのイボが多く腹に雲状の斑点が多く入っているのでヌマガエルではなく、ツチガエルと判断しました。同時にオタマジャクシもワナに入りましたが、足が生えている個体もあり、カエルになりかけているようです。

ツチガエルのオタマジャクシは腹部に斑点があり、ウシガエルのオタマジャクシと似ているようです。これまで、



ホトケドジョウ (2021年11月30日)



カワムツ稚魚 : 15 mm (2021年11月30日)



カワムツ成魚 : 100 mm (2021年11月30日)



アズマヒキガエル

葦毛湿原でウシガエルのオタマジャクシだと考えていたものが、ツチガエルのオタマジャクシであった可能性があることが分かりました。今後、確認して対処したいと思います。



ツチガエル成体・オタマジャクシ（2021年12月8日）

4) 甲殻類・貝類

甲殻類はモクズガニが3回確認されています。10月6日に③で甲羅幅5cmの♀、11月15・23日に⑥で甲羅幅3cmと5cmの♀が各1匹確認できました。腹節と尾部の



カワニナ（2021年11月30日）

形状から個体識別を行っていますが、すべて別個体と考えられます。これまで確認されたのはすべてメス（♀）です。今後オス（♂）が見つかるか確認したいと思います。

貝類ではカワニナが丸い小型の籠わなで見つかっています。葦毛湿原ではゲンジボタルも少数ですが生息しています。たまたま、籠わなに入ったもので、ホトケドジョウと同様に正式な生物調査を行えばかなりの数が生息している可能性があります。何もなかった森から池状に旧水田を再生して1年目で様々な生物が出現したことに驚いています。

⑥の旧水田は北側の水路と繋げて魚が昇れるように緩やかな石敷きの排水口を造りました。水路から排水口を通して魚やカニなどの様々な生物が入り込んできたと思われます。



モクズガニ（2021年11月23日）